

『四柱推命の本』 正誤表

2021 / 12

2021年末の時点で、以下の3ページに誤りがあることが判明しています。
お手数ですが、訂正をお願いします。

◇上巻	279
◇下巻	321
◇下巻	343

文字が赤くなっている部分が修正箇所です。

こうした四柱八字は割と簡単に弱と判断することができのですが、上下・左右の干に、1点でも印、あるいは比劫がありますと、果たしてこの日干は強なのか、あるいは弱なのかと頭を悩ますことになるのです。

甲寅(甲)		甲(甲)
己巳(丙)		己(丙)
戊寅(甲)	↓	戊(甲)
癸丑(癸)		癸(癸)

日干は戊土で巳月火旺に生まれ、月干に印の丙丁火はなく、印の火が旺じていますので、「旺の逆転」はなく、下段のように暦のままの蔵干で日干の強弱を判断することになります。

印が旺じており、日干は相令ではありませんが、月干の己土は年干の陽干甲木に剋されていますので日干戊土の扶けにはまったくありません。そもそも日の蔵干に陽干の甲木があるため、日干戊土は剋されて弱まっています。また、時干に陰干ではありませんが、**財の癸水がありますので、日干はさらにその力量を消耗することになります。**

このような四柱八字も、日干弱と見ることになります。もし仮に日の蔵干に戊土とか

さて、日干に官殺の壬水、財の辛金、食傷の己土が隣接していますので、行動力があり、人当たりもよく、親しみやすい人物であったであろうことをうかがい知ることができます。しかし「剋洩交加」になっていて、かつ年干は財の辛金です。通常、家庭環境に問題があると見なければならぬ四柱八字です。

しかし、昭和天皇の時代には、皇室では出生後、すぐに実母から引き離され、乳母により育てられる決まりがあつたようで、「剋洩交加」の四柱八字であることは、このしきたりが現われているものと考えられます。

なお、余談になりますが、母親は印ですが、実母から引き離されることで印の影響がなくなることは、「皇帝教育」にとつて重要な側面があるものと考えています。理由は、印の事象に「人とは共有できない価値観」があるため、人の上に立つことが宿命の天皇には印はいらぬ、ないほうがいい、のではないかと考えられるからです。

「通変の調和」は大運に財の庚辛金、印の甲乙木、官殺の壬癸水が巡りますと、成立します。己丑（己）運を除いたすべての大運で「通変の調和」が成立します。

ポツダム宣言の受諾後、連合国軍が日本を占領支配することになりました。昭和天皇

「腸内フローラ」に関する基礎知識

「腸内フローラ」という言葉ですが、フローラとは「ローマ神話に登場する花と春と豊穰を司る女神」^{つかさめがみ}のことです、端折った言い方では、フローラは「お花畑」と言われることがあります。ですから、「腸内フローラ」は「腸内のお花畑」ということになります。これは腸内の細菌が腸壁に群生しているようですが、お花畑のように見えると感じた研究者がいて、「腸内フローラ」と命名したと言われています。

さて、バクテリア・細菌のような単細胞生物がうごめく古代の地球環境の中から、生物は進化し、人類の誕生に至っているのですが、その過程において身の回りに多く存在する細菌と無関係に人という高等生物へと進化したのではないか、と考えられ始められています。人の腸内にいる細菌は人に寄生しているのではなく、人は腸内の細菌との共生を図りつつ進化し、現在に至っていると考えられ始めています。

進化論と言えば『種の起源』（1859）を著わしたチャールズ・ダーウインを思い